

住

全国建設室内工事業協会中部支部

居住空間の住み心地を左右する 最終工程

建設業の中では比較的新しい業種

一口に建設業といっても、宅地造成から足場の組み立て、建築物の骨組み工事、左官工事、屋根工事、造園、電気工事など、工種ごとに 29 の専門事業者が仕事を請け負います。室内工事は天井や壁を作り、床を貼り、居住空間を快適に仕上げる最終工程を受け持つ仕事です。具体的内容は床仕上げ、鋼製下地組立、ボード貼り壁装工等です。

こうした室内工事は従来の日本家屋にはなく、コンクリート造りをはじめとした近代建築工事に伴って行われるようになり、建設工事の中でも比較的新しい業種です。そのため、建設に用いる建材も新しく開発されたものがたくさん使われます。技能者の技術向上を目指し、昭和 41 年（1966）に全国新建材同業会が発足すると同時に中部支部がつけられました。その後、国に働きかけるなどし、昭和 46 年（1971）に内装仕上工事業も建設業法に定める業種として認められました。



内装仕上の技能検定試験風景

室内工事業に必要なガイドブックを編集

内装の仕上がり具合によって、居住空間の良し悪しが左右されます。それだけに細心の注意を払わなければなりません。全国新建材同業会は昭和 51 年（1976）に社団法人として許可を受け全国建設室内工事業協会となり、翌年に『内装仕上工事ガイドブック』を発行しました。現場での仕事は勿論、昭和 54 年（1979）からは、当時の建設省や労働省の委託を請けて技能工の国家認定のための「内装仕上施工技能検定試験」を実施し、令和元年（2019）現在で、25,200 人の技能士が認定されています。『内装仕上工事ガイドブック』はこの参考テキストとしても使われ、法改正や新しい建材や施工技術に合わせて改訂し、すでに 14 版を重ねています。

全国室内工事業協会中部支部の会員は 62 社、そのうち名古屋市内の会員は 42 社。会員となっている企業の新入社員を対象として、毎年 4 月に 4 日間、新人研修を行い、建設業の基礎から安全教育の座学、会員による実技指導、施工実習の体験などを行っています。



ボード仕上工事業